

## 近江物産

芝原誠二社長



環境立県の滋賀には高度なエコ技術をエンジンに成長する中小企業が少なくない。「びわ湖環境ビジネス」の常連である樹脂リサイクル会社の近江物産も、そんな一社である。車載向けなどの成形材料として大量消費されるポリプロピレン（PP）を高品位で再生できるプロ集団として国内外で注目されており、それを裏付けるように環境メッセのブースも毎回、商談に訪れる自動車業界の関係者らで盛況だ。

# 再生PPを車内装材に



1970年代後半から車載バッテリーケースのリサイクルに進出した同社は自動車関連プラ再生の草分けだ。現在は自動車だけでなく家電など幅広い分野のPP再生を手がけ、処理量は年間2万ト規模、PP再生では国内最大手にランクさ

れるまでになっている。そして2014年には経済産業省から先端事業投資促進事業の認定を取得し車載向けの高品位PPを製造する専用ラインを設置。この投資を受け、より高機能な車載向け再生PPの開発を目指した産官学連携プロジェクトが動き出している。

その共同事業とはどのようなものか。

「自動車内装向けの再生PPの技術水準をクリアするために再生プラの品質や

昨年の環境メッセ会場、再生PPの戦略を聞こうと多くの企業関係者が訪れた

機能を左右する樹脂配合などのノウハウを徹底的に磨かなければならない。地元大学と共同研究をスタートしており、険しい道程だが着実にハードルを越えていきたい」。展示会を前に芝原誠二社長は力を込めた。

2代目トップの芝原茂樹氏（現会長）から経営のバトンを受け今年で2年。社員が品質管理検定に挑戦する人材育成プロジェクトも動き出した。「オープンインベーションと品質管理体制の強化を車の両輪に、『次世代の近江グレード』と呼べる高機能な再生PPを開発したい」（芝原社長）。目標はずばり、再生プラ100%材料での車載品質基準のクリアだ。